



# 傳設計ニュースレター

## CONTENTS

- ◆今、伝えたいこと  
～発信する力～
- ◆信頼される  
建築士を目指して
- ◆木造戸建住宅の新築設計  
～Part. 1～
- ◆増築設計の悶々
- ◆い草のプロダクトで  
デザインアワード受賞  
～株式会社アダル様～
- ◆消防訓練について
- ◆内定式・次年度採用活動
- ◆社員名鑑



## 今、伝えたいこと ～発信する力～

新年明けましておめでとうございます。

今年は20年ぶりに新紙幣の発行が予定されていますね。私はすっかりキャッシュレス派になりましたので、市場に出回るようになっても見慣れるまで時間がかかるだろうなあとと思っています。

さて今回は昨年から取り組み始めた社内会議のことと、自ら発信することの大切さについてお話します。以前、「業務の見える化」についてお伝えしたことがありますが、社内組織体制の強化・充実の為、昨年より意匠・構造両設計部門の合同会議を行っております。この会議はただ単に工程表を読み合わせるのではなく、各自の担当物件をたたき台に、皆がより良く業務に臨めるようにすることを目的としております。業務を通して学んだことや調べたこと、失敗したことを各自が“発信する”ことで、皆で共有し自分が経験したこととして業務に生かすことができます。加えて、設計をする中で困ったことや迷うことが発生したときには、相談し不安を解消する場、業務の助けとなる場にもしたいと思っています。

自分だけで抱え込むのではなく、積極的に周りの助けをもらうこと、そのために必要なのが“発信する”ということです。弊社は新卒採用も行っていますから、まだまだ若手の社員も多いです。受け身にならず、自分から積極的にコミュニケーションを取りながら業務を行ってほしいと思っています。

また、発信することは業務内容に限ったことではありません。弊社には現在、設計部以外も含め30名程の社員がおります。30名ともなると、本当に様々なバックボーンがあり、彼ら一人一人のライフステージも異なります。当然全てを表に出す必要はありませんが、それぞれの立場や環境を踏まえて、生活と労働のバランスをとっていかなくてはなりません。例えば、リモートワークで自分の働き方のリズムを作っていくこともあっていいと思いますし、業務が落ち着いたタイミングでまとめて有給休暇を取得し、連休をとることも良いと思います。それぞれの考え方や働き方を互いに認め合い、尊重するためにも自ら“発信する”ことが大切なのです。(代表取締役 岩本 茂美)



★今年もよろしくお願いいたします★

## 岩本 茂美 (いわもと しげみ)

株式会社傳設計 代表取締役

《最近のこと》

新型コロナウイルス感染症が出現して早4年。とうとう私も感染してしまいました(泣)生まれてこの方インフルエンザにもかかったことがなかったのでショックでした…。妻が感染したとき私は元気だったのに…。感染対策には人一倍気を使っていたつもりですが、これからはより一層気を付けていきたいと思っています。



## ★信頼される建築士を目指して★

入社して半年が過ぎ、短い期間ですが様々な業務を経験しました。春から夏にかけては、2つのプロポーザルに取り組み、そのあとには、3カ月ほどかけて新築・改修設計の業務に携わりました。



★現場調査の際の1枚★

若手社員数名で取り組んだプロポーザルでは、提案書全体の密度を上げ、分かりやすい表現とするために限られた期間の中でたくさんの試行錯誤が必要でした。新築・改修設計の業務では、先輩の補助に入る形で図面作成を行いました。実施図面を作成する事は初めてで、1枚の図面を作成するために何日もかかっていました。一度書いた図面も書き直し、書き直し、、、3カ月の中で数えきれないほどの図面を書いたと思います。書いていると1本の線の意味を考えて、手が止まるということも何度もありました。

日々、業務の大変さを実感すると

ともに、学生の時との違いを感じたときには建築士としての一歩目を踏み出しているように感じ、充実感があります。業務を通して、仕様書を読み、法規や各部の詳細を確認し、設計図書や申請書類を作成するといった、設計の一通りの流れを経験しました。また、現地調査などを通して図面上での表現が実際の建物でどのような納まり、仕上がりになるのかを教えていただきました。学生の時よりも、実際に建物が建つことを

イメージできるようになったと思います。

技術者として、いまはまだ、自分の技術を生かして業務を行う、という場面よりも、業務を通して自分が技術を身に付けている場面が多いです。分からないことは調べ、先輩方に相談することで、足りない知識を埋めています。日々の忙しさの中でも目標を忘れずに、信頼される建築士になれるよう仕事に取り組んでいきます。(今井)

# 傳設計 設計業務

今号から数回に分けて、現在弊社で計画中の木造2階建て戸建住宅の新築設計についてお伝えしていきます。弊社では、今まで戸建住宅の実績はほとんどありませんでしたが、今後はシリーズ的に行っていきたいと考えており、その第一号が本物件です。

まずは第一回ということで、物件の概要と分筆・登記についてお話します。

物件の概要としましては、約97坪の敷地を2等分したところに、延床面積約32坪の2階建ての木造住宅をそれぞれ1棟(計2棟)建てる計画です。

基本計画段階から省エネ・創エネを軸に計画・検討を進めており、高性能の設備機器の導入や太陽光発電パネルの設置、断熱性能の向上等に配慮した設計を行っています。



★見つけた境界線★

さて、今回の本題です。皆さんは「分筆」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか。1つの敷地を複数に分割することを「分筆」と言います。本計画では、1つの敷地を2分割するため、2敷地間に新たな敷地境界線を設定する必要があります。

新たな敷地境界線は、それぞれの敷地について前面道路に面する距離が等しくなるように、また敷地面積も同程度となるように設定しています。今回は過去の測量図があったので、それをもとにこちらで分筆点の

指定を行い、土地家屋調査士の方に分筆登記申請の依頼を行いました。最終的には分筆点に写真のような印を打つことで、そこが敷地境界であることを示します。この印ですが、意識して見てみると、身近にもたくさんあるのぜひ探してみてください。最近では敷地境界を探そうが自分の生きがいです。(冗談です。) 次回は、今話題のZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)をメインにお話したいと考えています。お楽しみに！(中谷)



★見つけた境界線★

## ★木造戸建住宅の新築設計～Part. 1～★

## ★増築設計の悶々★



今回は自分が2件ほど増築案件に携わっているのですが、増築の際に気になってくることについてのお話をしたいと思います。

増築を検討する際には設計が難しくなる要因がいくつか存在します。

例えば、現状すでに建っている建物についての情報が無い場合。建物の図面や確認済証などが無い場合は勿論のこと、竣工後に届け出ずに増築や内部改修などを行っていると、増築の際に必要な図面や手続きがかなり増えます。

増築によって増える面積の量も重要です。小さな増築であれば良いのですが、床面積が現状の1.5倍以上になるような増築をすると法規的に超えなければならないハードルが跳ね上がります。また、床面積が増えることでこれまでは必要無かった手続きが必要になる場合もあり、その手続きが提出から承認までに1カ月かかるとなれば、早く設計を終わらせなければならないので、その分設計が大変になってきます。

また、いざ設計段階になると、増築部分をどうやって接続するかも悩

みどころです。増築した際の接続には「エキスパンションジョイント」というパーツを使うのが基本ですが、接合する部分に底が出ていたりして凸凹していると設計が難しくなります。接合部分の高さが合わない、既存と建物の面が合わないなど、不安要素が重なると繋ぎ方だけでも悩みの種になりうるのです。

…ということで、何やら半分設計者サイドの愚痴みたいになってしまいましたが、これらの要因でプランの変更、最悪構想が頓挫する可能性もあります。増築などで「こうした」という構想がある方は一度設計事務所にご相談されてみてはいかがでしょうか。(松岡)



★増築時の接続…エキスパンションジョイントを使用した建物★

# NEW&HOT TOPIX

今回は、創業70年、レストラン・ホテル・オフィスなど多業界に家具を納入する業務用家具メーカーの株式会社アダル様にお話を伺いました。

「昨年、い草を家具に用いたサステナブルブランド『Look into Nature』コレクションの「SAKYU/砂丘」という商品が2度のアワードを受賞する事ができました。デザイナーは、ドイツ人のMichael Geldmacher(ミハエル・ゲルトマツハ)です。

1度目は、JCD(一社 日本商環境デザイン協会)が主催するデザインアワードです。

照明器具や建材、家具など多岐に渡るインテ



★アワード受賞作品★

リアル材の中から一次審査、二次審査を経て準グランプリを受賞しました。今後、「商店建築」、「NIKKEI DESIGN」など専門誌への掲載や「JAPAN SHOP 2024」で展示されます。2度目は、世界最大のインテリア系ECサイトarchiproducts主催のデザインアワード、「Archiproducts Design Award 2023」のFurniture部門で、造形美やサステナブル性などを評価され受賞となりました。このアワードは、国際的なクリエイティビティに最も影響力のある40名以上の審査員によって、世界中の優れたデザインプロジェクトを選定するデザイン賞です。archiproductsとは、3万以上のブランドを取り扱い3,500万人の登録ユーザーが利用する、世界最大のインテリア系ECサイトです。

この誉を糧に、『家具を通して人の営みを支え、より豊かで快適に過ごせる空間を提供する』この弊社のミッション達成に向けて一歩一歩成長していきたいと考えています。

コロナ禍でお家時間が長くなり、快適さを求める方も多くなったのではないのでしょうか?より快適に過ごせる空間にする方法をご相談されてはいかがでしょうか。(山口)

## ★い草のプロダクトでデザインアワード受賞 ～株式会社アダル様～★

## ★消防訓練について★

皆さんは消防訓練について知っていますか？

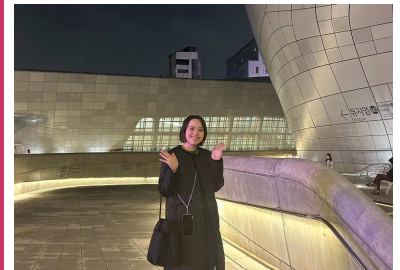
消防訓練には通報訓練、消火訓練、避難訓練の3つがあり、それぞれまたはすべて実施しなければなりません。弊社の舞鶴DSビルは、年に2回の消防訓練をする必要がある建物です。

DSビルで気を付けること等を消防設備点検でお世話になっている会社さんにお聞きました。1階の厨房で、火災が起きたら初期消火をするが、無理な時は、室外に出て火災報知器を押し周りに知らせること。消防署に連絡すること。火災報知器が鳴ったら、建物内にいる人は、まず逃げること(階段で下に降りる)。ビルの構造上煙が上に昇りやすいので、上の階の人は階段での避難が困難になること。階段避難ができないときは、ベランダの避難はしごを使って避難すること。なるほどと思いましたが、とっさに行動できるか不安になります。

通報すること、火を消すこと、逃げること、全体をイメージして訓練を実施し、個々が冷静に行動することが大切だと感じました。(岩本(玲))



## 社員名鑑 vol.49



氏名:山口 沙希

社歴:1年9カ月

所属:設計部

主な業務:意匠設計

趣味:旅行、建築巡り(特に美術館とホテルを見物するのが好きです)、ショッピング

傳設計に入社して約1年半が経ちました。入社後、BIMを使用した改修やプレハブ新築、省エネ適判計算、プロポーザルなど、様々な業務に携わってきました。

現在は、学校新築業務や飲食店改修業務などをおこなっています。物件それぞれに学ぶことがあって、良い刺激を毎日受けながら仕事に取り組んでいます。

休日は、短い休みでも旅行に行ったり、車で遠出したりして、リフレッシュをしています。最近では、友人と初めて韓国に行き、美術館やデザインプラザを見物してきました。2024年も様々なことに挑戦し、さらに成長していきたいと思っています。

## ★内定式・次年度採用活動★

昨年10月2日、令和6年度入社の内定式を執り行いました。社長より、内定証書を授与し、正式に採用内定となりました。4月より意匠2名が入社いたします。内定者の方には、学生時代に取り組んだことや入社への意気込みなどを話していただきました。とても熱心で前向きな2名が入社いたしますので、とても楽しみです。「今しかできないこと」を残りの学生生活で楽しんでいただき、実り多きものにしてほしいと思います。皆さま、4月よりご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、弊社では、すでに来年度の新卒採用に向けて、準備の真っ只中でございます。弊社では、官公庁案件、民間案件、新築、増築、改築、改修、構造設計、耐震診断…と幅広く、意匠部と構造部がある設計事務所は珍しいと思いますし、たくさんの方が学べる環境だと思います。設計事務所での仕事にご興味のある方は、ぜひ弊社HPよりお問い合わせください。お待ちしております。(高野)



★社長よりご挨拶★



★内定証書授与の様子★

◆ 編集後記/// 明けましておめでとうございます。令和6年は辰年ですね。辰年の中でも、「甲辰(かのえたつ)」と言うそうです。「甲辰」という言葉には、『立ち上がる』という意味があり、新しいスタートを切るときに用いられることもあるそうです。本年も皆さまにとっていい一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。/アンケートを同封しておりますので、ニュースレターのご意見、ご感想をお聞かせいただけましたら、幸いです。(高野)



「想い・安全・未来をカタチに」  
株式会社 傳設計  
DEN ARCH. & ENG. OFFICE

〒810-0073

福岡市中央区舞鶴1-6-13 舞鶴DSビル

TEL:092-737-1500 (代表)

FAX:092-737-1501

